



栃木県生協連

2012年度4月定例報告

2012年4月17日

栃木県連 専務 鎌柄

(1) 3月活動日誌

日付	曜日	日誌
3月1日	木	県連監事研、会計学習会
3月3日	土	いわき市四倉町仮設ボランティア
3月6日	火	関東地方消費者グループフォーラム
3月7日	水	県里めぐりモニター会議
3月8日	木	食の安全ネットワーク・全体会
3月12日	月	県連常務理事会、国際協同組合年ワーキングチーム会
3月15日	木	農産物マーケティング協会理事会、県コンプライアンス研修会
3月16日	金	地方消費者グループフォーラム実行委員会、中央地連事務局会議
3月19日	月	福祉センター・Vネット企画象さんタオル製作者との懇談会
3月20日	火	ふれあいお茶会
3月21日	水	県消費生活審議会
3月22日	木	福祉ネットワーク
3月23日	金	福祉センター理事会
3月26日	月	富士重工生協送る会
3月27日	火	消費者ネットワーク全体会
3月28日	水	労福協・福祉まつり実行委員会
3月29日	木	中央地連運営委員会、日生協議案検討会議

(2) 3月活動の概況

(富士重工宇都宮生協を送る会)

3月26日県連主催の「富士重工宇都宮生協を送る会」を開催し、12生協2連合会31名の参加があった。生協設立から50年、母体企業の福利厚生制度統一との方針があり、昨年の総代会で方向性を確認、9月に臨時総代会、12月末をもっての富士重工宇都宮生協の解散と栃木県の解散認可がされた。1月日本生協連脱退、3月末栃木県連脱退ということがあり、大野理事長、木目沢専務、向井部長、吉澤部長の4名の方々にご参加いただき、会員の皆さんによる「送る会」が行われた。引地元会長はじめ、歴代の専務、石油部会への貢献など、多くの面で県連を支えていただいた歴史が長く、心よりお礼を申し上げたい。感謝と同時に今後は、職域団体連絡会を通じた会員間の連帯が続くことに期待したいと考えます。

(宇都宮市内と福島県で避難されている方々のふれあいお茶会)

3月20日ふれあいコープの特養みどり、福島県から宇都宮市内に避難されている方々に対する第7回目の「ふれあいお茶会」が開催された。今回は32名の方（内浪江町の方22名、大熊町の方4名、双葉町2名、南相馬市の方4名、福島市の方2名、郡山市の方4名、須賀川市の方1名、檜葉町の方2名、飯館村の方1名、スタッフ関係者の方13名（とちぎコープ、NPOウィズ、ふれあいコープ、県連）の参加があつ

た。お子さんの参加も10名あり、避難されている方も関わり芋煮や浪江焼きそばなど調理された。同郷の方々など参加者の交流の輪が更に広がっている。

(いわき市中核工業団地内仮設でのお茶会)

いわき市内には、福島県内の震災被害と原発事故で仮設に入居されている方々の仮設が複数設けられている。NPO宇都宮市民工房では、現地のいわきNPOセンターとの連携で、同市内湯本の仮設に月2回月曜日に支援に入っていて、市内から遠い中核工業団地の仮設に支援が行き届いていないとの相談があった。2月に事前の現地で打ち合わせを行い、2月暮らし部会で有志の理事さん中心に3月から取り組んで見ることが決まった。

いわき地域絆づくりセンターで事前に仮設にチラシをまいて貰い、3月3日朝壬生のコープおもちゃのまち店に集合、高速を使い車2台、有志12名（とちぎコープ、よつ葉生協、県連）でいわき市四倉町に向かいお茶会を開催した。事前の準備や当日早朝からちらし寿司を造ったり、漬物やひじきの煮物などの用意をしたりと理事の皆さんに大変な準備をいただいた。ひな祭りの雰囲気を感じてもらえるような手作りの人形や生協のお菓子、おにぎりなどの軽食が用意された。

事前のお知らせもあり、11時～14時位の約3時間を16名の方が来られて、お話や折り紙をされて、ひと時の交流の場となった。入居者の方同士でも、意外と集まれる機会は少ないようだった。当日も仮設にいらっしゃるお宅に声をかけをしたり、こられた方にも知り合いに声かけのお願いをした。それぞれお話を伺うと大変な状況が垣間見える。少しでも仮設での横のつながりのお手伝いできればとの思いで、継続していくこととしている。



(お茶会の準備をする皆さん)

(EAST LOOPの支援とハートブローチ普及)

フェアトレードなど関西で主に活動している(株)福市が、被災地での被災者支援としてハートブローチの販売と製造は被災者への委託を行い、1ヶ当たり400円が政策に当たられた方々に渡る仕組みとしてのEAST LOOPに取り組んでいる。

岩手、宮城など被災された方々が製作されているハートブローチを、竹内会長中心に290ヶ普及が進められた。会員でも組合員さん向けに普及の準備が進められている。

(福祉ネットワーク)

22日福祉ネットワークは、4会員7名の参加があった。4月からのふれあいコープでの介護保険制度の改定への対応事例を中心に、準備状況などの意見交換がされた。

2011年度の状況と2012年度の計画状況の交流も行われた。ふれあいコープでは地域密着型小規模特養の開設が5月に予定され、今秋には小山での新規事業所の開設準備が進んでいる。また、NPOあじさいでは、今秋に新築移転を含めて高齢者向け賃貸住宅とデイの準備が進められ、新たな挑戦の年になるとの報告がされた。

(食の安全課題の関連)

3月8日とちぎ食の安全ネットワーク全体会では、JA栃木中央会農業対策部野口部長より、「放射性物質を踏まえた24年産農業生産技術対策について」報告された。技術対策としては、深く耕す、カリウム肥料の適正施肥、収穫物を汚さない、土壌の放射性セシウム濃度を高めないなどの取り組みが県から方針が出されたとの報告があった。また、2011年度の取り組みの振り返りと2012年度計画作りに向け意見交換がされた。

(消費者課題の関連)

3月6日「関東地方消費者グループフォーラム」大宮のソニックシティで開催された。約190名の参加があり、1都9県の消費者グループが一堂に会した。主催は消費庁と実行委員会だが、準備を始め埼玉県消団連が事務局機能を果たしていただいた。栃木県からは、県行政の方2名、消費者ネットワークから4名、計6名の参加だった。

「もっと つながろう 地域から」をテーマに富沢賢治聖学院大学大学院教授の基調講演がと各地からの消費者グループによる取り組みの実践報告が行われ、その後広い会場で小規模のグループによる分散会が行われた。講演の感想や現在の各消費者グループの悩みや課題など、それらを各地に持ち帰ろうという趣旨で、幅広い参加者間の交流が行われた。

21日県の消費生活安定対策審議会が開催され、平成23年度の取り組み報告と平成24年度の計画が提案された。活性化基金の活用もあり、研修や自治体でのセンターの設置など前進が見られた。

27日消費者ネットワーク全体会では、消費生活条例の学習が杉原先生を講師に行われた。次回も学習を継続していく事とした。2012年度計画づくりに向けた意見交換も行われた。

(国際協同組合年)

国際協同組合年県連ワーキングチーム会

12日国際協同組合年のワーキングチーム会第7回目が開催された。会員報告では、企業組合とちぎ労働福祉事業団田中専務からの報告、「協同組合の役割と未来」第2章の学習では、「全国労働者共済生協連・全国漁業協同組合連合会編」について、栃木保健医療生協の宮本組織責任者から報告が行われ意見交換された。「海と山の人との連携」NPO法人森は海の恋人代表畠山重篤さんの取り組みなど、先行的な事例や感想が出された。

(3) 4～6月の課題

1. 4～6月部会・委員会活動の推進
2. 4～6月ネットワーク活動（食の安全ネット全体会、消費者ネット全体会）
推進
3. 2012年国際協同組合年栃木県実行委員会「協同組合まつり」の準備と成功
5. 栃木県生協連内の国際協同組合年ワーキングチームの活動推進
6. 震災被災地・被災者への支援・ボランティア派遣

(平成24年度上期・栃木県・関係団体等関係行事の事前のお知らせ)

栃木県主催「消費者のつどい」

- ・日 程 5月30日(水) 13時～
- ・会 場 栃木県総合文化センター・サブホール
- ・基調講演 講師 全国消団連 阿南 久 事務局長

栃木県・とちぎ食の安全ネットワーク共催

「食品安全地域フォーラム」

- ・日 程 6月20日(水) 13時半～16時半
 - ・会 場 那須塩原市 三島ホール
 - ・予定テーマ 放射性物質と食品の安全性について
(第2弾) 食品中の放射性物質の新らたな基準値について
- 栃木県・宇都宮市・とちぎ食の安全ネットワーク共催

「第9回とちぎ食品安全地域フォーラム」

- ・日 程 7月 4日(水) 13時半～16時半
- ・会 場 栃木県総合文化センター・サブホール
- ・予定テーマ 放射性物質と食品の安全性について
(第2弾) 食品中の放射性物質の新らたな基準値について

国際協同組合年栃木県実行委員会主催「協同組合まつり」

- ・日 程 6月23日(土) 10時～15時
- ・会 場 マロニエプラザ
- ・内 容 展示・販売など約50ブース
- ・スローガン ‘みんなでつなごう、協同組合の輪!’
(国際協同組合年スローガン:「協同組合が、よりよい社会を築きます」)

栃木県生協連「第43回通常総会」

- ・日 程 6月29日(金) 14時～
- ・会 場 とちぎ福祉プラザ・3階福祉研修室